

はじめに



上野原遺跡復元公開区

はじめに

1 鹿児島県の地理と自然

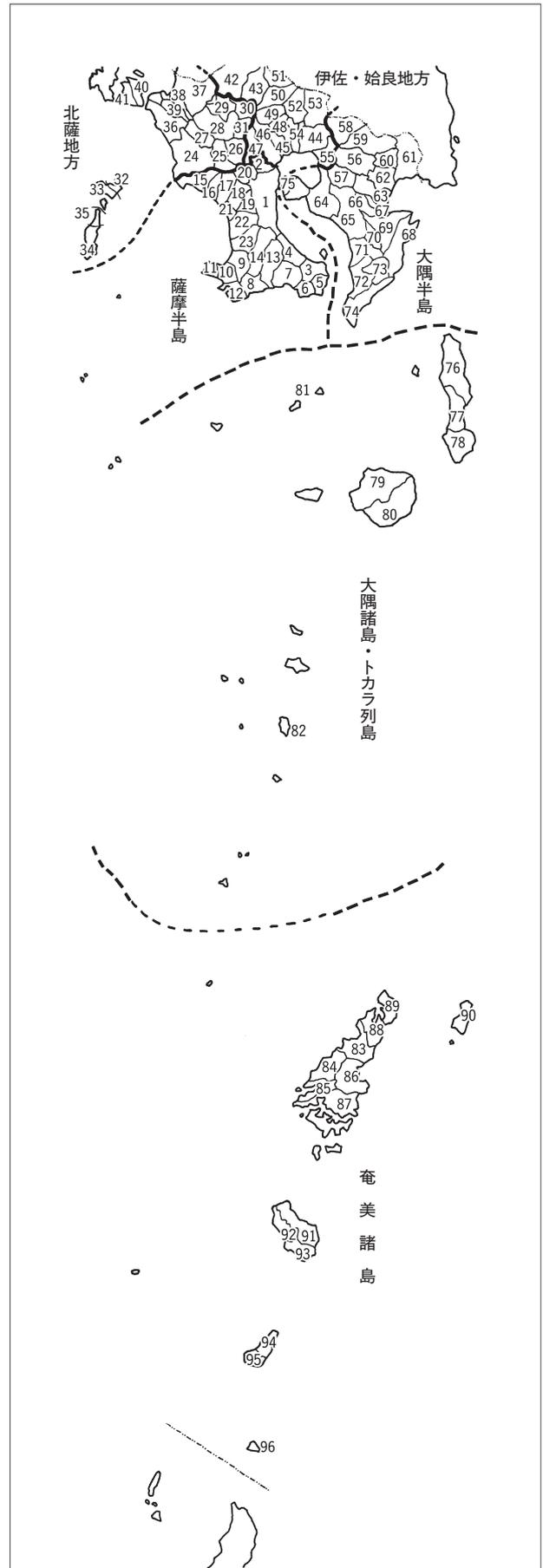
鹿児島県は、日本列島の西南隅に位置することや、離島が多く九州島とほぼ同じ長さをもつこと、地質構造上において本州弧と琉球弧の邂逅点に当たることなどから、特色ある自然風土が存在している。

その第1の要因は、日本列島の西南隅に位置していることから、日本の中で沖縄県に次いで亜熱帯的気候であることである。第2の要因は、離島を含めた県域が広大であり、県内における地理的変化が非常に大きく、種子島・屋久島以北と奄美大島以南とに大きく二分されていることである。生物地理学でいう渡瀬線は十島に所在し、ここは大和文化圏と琉球文化圏の境界地帯に相当している。第3の要因は、本州弧南端のトカラ列島まで、北から霧島、桜島、開聞岳などの諸火山が帯状に連なっており、巨大なカルデラを形成し、その噴出物は九州島南部を覆って火山灰台地を形成するなど、各地に特色ある地形を現出していることである。また、紺碧の海とサンゴ礁をもつ琉球弧に当たるトカラ列島以南は、海陸にわたり豊富な生物相の存在が特筆されるものである。

本資料編では、地理的要因と自然的要因から、鹿児島県を「薩摩半島」「北薩地方」「伊佐・始良地方」「大隅半島」「大隅諸島・トカラ列島」「奄美諸島」の6地域に区分して、先史・古代の遺跡を紹介することにした。

薩摩半島は、大隅半島とともに県本土を二分する半島で、県本土の南半で西側に突出した部分にあたる。西側と南側は東シナ海に面しており、北側は鹿児島市と東市来町を結ぶ断層線にあたる。この地域には、西海岸沿いの加世田市から串木野市まで総延長30kmに及ぶ吹上浜砂丘がある。南西部の海岸はリアス式海岸で、坊・野間県立自然公園になっている。南東部は霧島火山帯に属し、火山地形の世界的宝庫で、南薩台地は新旧の指宿火山の噴出物で形成されている。

薩摩半島の5市18町のうち、ここでは鹿児島市・指宿市・枕崎市・加世田市・串木野市・吉田町・喜



第1図 鹿児島県の地域区分

第1表 薩摩半島の遺跡

		市町村名	面積km ²	遺跡総数	掲載 遺跡数	旧石器 時代	縄文時代	弥生時代	古墳時代	古代	中世	近世	延総数
鹿児島・指宿	1	鹿児島市	289	197	17	4	61	56	91	8	66	27	313
	2	吉田町	54	41	2	1	12	1	12	41	14	2	83
	3	指宿市	78	90	9	9	38	31	62	23	16	7	186
	4	喜入町	61	83	1	6	24	27	34	4	10	8	113
	5	山川町	37	16	1	0	3	7	3	0	5	2	20
	6	開聞町	33	28	0	0	3	11	9	2	10	0	35
	7	額娃町	110	76	1	0	31	14	27	13	12	0	97
川辺	8	枕崎市	74	78	5	6	31	9	22	4	12	2	86
	9	加世田市	94	97	4	11	47	35	41	5	29	8	176
	10	大浦町	38	35	0	0	13	10	12	1	5	0	41
	11	笠沙町	39	28	2	0	8	2	13	5	1	0	29
	12	坊津町	38	34	0	0	4	5	4	1	12	9	35
	13	知覧町	120	178	4	2	77	30	47	11	57	25	249
日置	14	川辺町	127	145	2	1	51	21	46	10	31	3	163
	15	串木野市	80	50	1	0	31	1	6	0	22	17	77
	16	市来町	31	56	3	5	17	15	28	1	36	25	127
	17	東市来町	70	91	3	4	0	25	55	7	50	36	177
	18	伊集院町	55	79	5	4	13	0	9	9	18	2	55
	19	松元町	51	58	6	9	23	15	18	2	3	0	70
	20	郡山町	57	29	1	0	13	2	1	1	22	1	40
	21	日吉町	29	41	1	0	7	1	10	4	16	4	42
	22	吹上町	96	118	7	2	27	17	47	13	33	7	146
	23	金峰町	72	130	22	7	49	37	68	32	46	5	244
小計			1,733	1,778	97	71	583	372	665	197	526	190	2,604

入町・山川町・額娃町・笠沙町・知覧町・川辺町・市来町・東市来町・伊集院町・松元町・郡山町・日吉町・吹上町・金峰町の5市15町に存在する97遺跡を紹介する。

北薩地方は、出水地域と薩摩地域に分かれる。出水地域は、紫尾山（標高1,067m）を主峰とする出水山地で、その山麓部に野田川・高尾野川が形成した扇状地が広がっている。長島本島は、全体として安山岩質の丘陵からなり、平地に乏しい。八代海に浮かぶ獅子島、伊唐島、諸浦島などは、白亜期系の砂岩からなるものが多い。薩摩地域は、川内川の中・下流域と甑島列島よりなる。川内川中・下流域は、出水・薩隅・八重山の各山地に囲まれ、多数の小盆地が分布する。甑島は、上甑・中甑・下甑の三島と付近の小島からなる。上甑島は主に古第三紀層、下甑島は主に中生層・花崗岩からなる。全島が急崖のリアス式海岸で、平地は少ない。

北薩地方の3市11町4村のうち、ここでは川内

市・阿久根市・出水市・入来町・東郷町・宮之城町・鶴田町・薩摩町・里村・下甑村・高尾野町・東町・長島町の3市8町2村に存在する42遺跡を紹介する。

伊佐・始良地方のうち伊佐地方は、周囲は古い安山岩類よりなる山地であり、東方は霧島山系に囲まれた盆地で、盆地底の海拔高度は170m内外である。中央を東から西へ川内川が流れている。気候は、海から遠い盆地のため昼夜の温度差が大で、冬の冷え込みは著しい。始良地方は、始良カルデラの北辺にあたり、背後に霧島山系をかかえる。

伊佐・始良地方の2市12町のうち、ここでは大口市・国分市・菱刈町・加治木町・始良町・蒲生町・溝辺町・横川町・栗野町・吉松町・牧園町・隼人町・福山町の2市11町に存在する65遺跡を紹介する。

大隅半島は、本県の東南部に突き出した半島で、加治木から福山、志布志の断層線以南の地域を指す。地形は北西から高隈山地、曾於丘陵（シラス台地と中央低地）、肝属山地に三分される。高隈山地は大

第2表 北薩地方の遺跡

		市町村名	面積km ²	遺跡総数	掲載 遺跡数	旧石器 時代	縄文時代	弥生時代	古墳時代	古代	中世	近世	延総数
川	24	川内市	265	202	17	3	46	45	112	102	123	24	455
	25	樋脇町	64	84	0	6	36	0	34	2	28	3	109
	26	入来町	72	102	2	4	41	2	40	1	36	19	143
	27	東郷町	80	65	1	1	33	0	22	16	25	3	100
	28	宮之城町	145	128	1	1	65	9	66	9	45	9	204
	29	鶴田町	77	72	3	1	21	4	34	2	30	3	95
	30	薩摩町	79	35	1	0	18	6	23	5	11	0	63
	31	祁答院町	82	34	0	0	4	4	9	2	18	0	37
	32	里村	17	8	1	0	1	1	4	1	4	0	11
	33	上甌村	34	2	0	0	0	1	2	0	0	0	3
	34	下甌村	57	16	2	0	2	6	11	1	2	1	23
	35	鹿島村	8	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0
出 水	36	阿久根市	134	55	3	2	29	11	17	9	25	1	94
	37	出水市	228	128	6	21	69	9	25	27	30	9	190
	38	高尾野町	69	41	3	1	27	13	14	2	10	2	69
	39	野田町	30	16	0	0	3	3	4	4	15	0	29
	40	東町	71	22	1	4	7	1	11	0	2	1	26
	41	長島町	45	28	1	2	8	6	21	1	4	0	42
小	計	1,557	1,040	42	46	410	121	449	184	408	75	1,693	

篔柄岳（おおのがらだけ）を最高峰とする中生層と花崗岩の山地である。曾於丘陵は始良カルデラより噴出したシラス台地と肝属川等の河川の浸食、堆積作用によりできた中央低地（肝属平野と呼ばれる）とからなる。中央低地には湧水が数多くみられ、水田が卓越し、弥生時代から古墳時代にかけては最も生産性の高い平野で、畿内型古墳が集中する地域でもある。最南端部の佐多岬付近は霧島・屋久国立公園の一部で、亜熱帯植物の群生地でもある。

大隅半島の2市18町のうち、ここでは垂水市・鹿屋市・桜島町・大隅町・輝北町・財部町・末吉町・松山町・志布志町・有明町・大崎町・串良町・東串良町・高山町・吾平町・大根占町・根占町・田代町・佐多町の2市17町に存在する75遺跡を紹介する。

大隅諸島・トカラ列島は、大隅諸島とトカラ列島から成る。大隅諸島は、大隅半島の南、薩南諸島北部の群島である。花崗岩と古生代の砂岩・頁岩を主とした、急峻で九州の最高峰を有する屋久島、新旧の第三紀層の種子島・馬毛島、霧島火山帯に属する火山島の口永良部島からなり、竹島・硫黄島・黒島も含まれる。屋久島・種子島の海岸には数段の海岸段丘が発達し、段丘面には集落や耕地が展開する。

トカラ列島は、屋久島と奄美大島の間に、約180kmにわたって点在する小規模な火山性の島々である。地帯構造的には琉球弧の内帯を形成し、火山活動の活発な地域である。亜熱帯植物やサンゴ礁などがほぼ全域に見られ、自然環境の漸移性が著しいが、気候的にも温帯と亜熱帯との漸移地帯となっている。本列島の海域は、北上してきた黒潮が大きく東転する位置にあたり、全島がほぼこの海流の流域内にあって、その影響はきわめて大きい。この地域は琉球文化圏と本土文化圏の交錯する地点である。

大隅諸島・トカラ列島の1市4町2村のうち、ここでは西之表市・中種子町・南種子町・上屋久町・屋久町・十島村の1市4町1村に存在する28遺跡を紹介する。

奄美諸島は、県の最南部、薩南諸島の南半の島群で、トカラ列島と琉球諸島の間に位置する。ハブがすむ奄美大島・加計呂麻島・与路島・請島・徳之島と、ハブのいない喜界島・沖永良部島・与論島からなる。亜熱帯の気候である。奄美大島は、主に古生層からなり、標高694mの湯湾岳を最高峰として壮年期の山地が広がる。リアス式海岸で出入りに富み、特に大島海峡は台風時の避難港として利用されてい

第3表 伊佐・始良地方の遺跡

		市町村名	面積km ²	遺跡総数	掲載 遺跡数	旧石器 時代	縄文時代	弥生時代	古墳時代	古代	中世	近世	延総数
伊 佐	42	大口市	291	137	11	6	71	12	49	15	40	3	196
	43	菱刈町	100	127	7	1	51	29	25	21	23	4	154
始 良	44	国分市	122	102	8	0	22	16	47	17	33	5	140
	45	加治木町	47	85	4	0	21	5	17	13	20	39	115
	46	始良町	102	75	8	0	19	5	23	10	49	8	114
	47	蒲生町	81	57	1	0	0	4	9	10	31	2	56
	48	溝辺町	63	60	5	1	26	21	27	26	5	0	106
	49	横川町	70	58	2	1	16	0	23	13	11	1	65
	50	栗野町	89	110	4	7	69	18	53	10	42	3	202
	51	吉松町	54	41	3	0	23	9	16	6	13	0	67
	52	牧園町	129	69	2	1	33	2	45	4	30	1	116
	53	霧島町	82	37	0	0	18	3	14	1	13	0	49
	54	隼人町	66	138	5	1	28	8	37	15	85	29	203
	55	福山町	68	48	5	1	20	9	7	3	14	0	54
	小 計			1,364	1,144	65	19	417	141	392	164	409	95

第4表 大隅半島の遺跡

		市町村名	面積km ²	遺跡総数	掲載 遺跡数	旧石器 時代	縄文時代	弥生時代	古墳時代	古代	中世	近世	延総数
曾 於	56	大隅町	145	264	1	1	189	35	20	35	116	24	420
	57	輝北町	88	45	1	0	17	3	12	3	8	0	43
	58	財部町	115	101	3	3	56	3	3	13	68	0	146
	59	末吉町	129	171	8	6	117	36	23	28	30	7	247
	60	松山町	49	99	2	0	64	29	5	2	35	1	136
	61	志布志町	141	211	9	10	158	68	11	21	12	2	282
	62	有明町	98	166	2	2	66	54	50	16	21	0	209
肝 属	63	大崎町	100	176	5	0	35	63	105	8	23	0	234
	64	垂水市	161	123	2	0	20	29	53	17	29	11	159
	65	鹿屋市	234	245	18	6	71	68	118	12	82	12	369
	66	串良町	65	181	4	0	16	56	126	3	23	10	234
	67	東串良町	27	201	2	0	0	12	160	1	28	0	201
	68	内之浦町	179	42	0	0	6	8	6	1	5	0	26
	69	高山町	128	235	4	0	16	62	157	2	22	1	260
	70	吾平町	59	79	2	0	20	52	41	22	9	1	145
	71	大根占町	85	71	2	0	37	27	27	4	9	1	105
	72	根占町	88	47	4	0	14	12	13	4	12	5	60
73	田代町	77	21	4	0	7	6	2	2	8	2	27	
74	佐多町	125	19	1	0	4	0	1	0	9	1	15	
75	桜島町	32	7	1	0	2	0	0	0	4	0	6	
小 計			2,125	2,504	75	28	915	623	933	194	553	78	3,324

る。徳之島は、中央部に井之川岳（標高645m）を主峰とする花崗岩の山地が南北に連なる。海岸段丘が発達し、裾礁に囲まれている。沖永良部島は、古生層を基盤とし、数段の隆起珊瑚礁からなる。大山（標高245m）を最高地点とする低平な島で、大山山麓を中心にカルスト地形特有のドリーネが多数見ら

れ、地下には昇竜洞・水蓮洞などの鍾乳洞が走る。与論島は、奄美諸島の最南端で、本島の最南端でもある。島の南部に古生層が見られるが、ほとんどが隆起サンゴ礁からなり、周囲は堡礁で取り囲まれている。

奄美諸島の1市10町3村のうち、ここでは名瀬

第5表 大隅諸島・トカラ列島の遺跡

	市町村名	面積km ²	遺跡総数	掲載遺跡数	旧石器時代	縄文時代	弥生時代	古墳時代	古代	中世	近世	延総数
熊	76 西之表市	205	120	8	2	66	12	16	3	25	0	124
	77 中種子町	137	90	8	1	79	15	3	0	8	0	106
	78 南種子町	110	73	4	3	48	7	6	8	17	2	91
	79 上屋久町	298	52	3	0	33	2	2	17	22	3	79
毛	80 屋久町	242	39	1	1	8	4	4	0	5	1	23
	81 三島村	31	21	0	0	12	0	2	4	7	0	25
	82 十島村	101	19	4	0	5	2	0	0	0	0	7
小	計	1,124	414	28	7	251	42	33	32	84	6	455

第6表 奄美諸島の遺跡

	市町村名	面積km ²	遺跡総数	掲載遺跡数	旧石器時代	縄文時代	弥生時代	古墳時代	古代	中世	近世	延総数
大島	83 名瀬市	127	74	2	0	4	3	4	13	63	3	90
	84 大和村	90	5	0	0	0	0	0	0	4	1	5
	85 宇検村	103	5	1	0	0	0	0	0	5	0	5
	86 住用村	117	25	1	0	1	1	1	0	2	0	5
	87 瀬戸内町	239	22	1	0	3	0	0	0	18	2	23
	88 龍郷町	82	31	2	0	5	3	6	1	5	1	21
	89 笠利町	60	77	11	2	15	9	20	0	17	12	75
	90 喜界町	56	128	0	0	22	11	26	20	93	3	175
	91 徳之島町	104	38	0	0	21	2	1	1	10	0	35
	92 天城町	80	30	1	0	10	3	0	0	13	1	27
	93 伊仙町	62	59	6	2	22	25	13	13	31	0	106
	94 和泊町	40	41	0	0	16	5	3	3	20	0	47
	95 知名町	53	70	3	0	4	11	18	6	32	0	71
96 与論町	20	15	1	0	22	2	0	0	4	0	28	
小	計	1,233	620	29	4	145	75	92	57	317	23	713
合	計	9,136	7,500	336	175	2,721	1,374	2,564	828	2,297	467	10,426

市・宇検村・住用村・瀬戸内町・龍郷町・笠利町・天城町・伊仙町・知名町・与論町の1市7町2村に存在する29遺跡を紹介する。

2 鹿児島県内の遺跡

平成15年度までに登録された鹿児島県内に所在する遺跡（周知の遺跡）は、7,500遺跡を数える。

本県の遺跡を時代別にみると、奈良時代以降を除けば、縄文時代が2,721遺跡と最も多く、続いて古墳時代2,564遺跡、弥生時代1,374遺跡、旧石器時代175遺跡となり、本県の時代別の遺跡の特徴としては、縄文時代とそれに続いて古墳時代の遺跡が多い県ということがいえる。

各市町村別の遺跡数は、第7表のとおりである。地域別の遺跡数の内訳は、総遺跡数7,500遺跡に対

し、薩摩半島1,778遺跡、北薩地方1,040遺跡、伊佐・姶良地方1,144遺跡、大隅半島2,504遺跡、大隅諸島・トカラ列島414遺跡、奄美諸島620遺跡を数える。地域別にみると、大隅半島が2,504遺跡で最も多く、大隅諸島・トカラ列島が414遺跡で最も少ない。鹿児島県では、1975年から1998年の20数年、24回にわたって、県下全域の分布調査をくまなく実施してきた。この遺跡数については、地域別に特徴がある。農業基盤整備事業をはじめ各種開発の多い地域には遺跡の発見が多い反面、奄美諸島などのように面積のほとんどを急峻な山岳地帯が占めるために遺跡が存在する平地が少ない地域もあることを考慮しなければならない。

第7表 鹿児島県内の地域別・時代別遺跡

	面積比	遺跡総数	旧石器時代	縄文時代	弥生時代	古墳時代	奈良時代以降	計
薩摩半島		1,778 (24%)	71 (41%)	583 (22%)	372 (27%)	665 (26%)	913 (25%)	2,604
遺跡密度	19%	1.25	2.14	1.13	1.42	1.37	1.34	
北薩地方		1,040 (14%)	46 (26%)	410 (15%)	121 (9%)	449 (18%)	667 (19%)	1,693
遺跡密度	17%	0.82	1.55	0.89	0.52	1.03	1.09	
伊佐・始良地方		1,144 (15%)	19 (11%)	417 (15%)	141 (10%)	392 (15%)	668 (19%)	1,637
遺跡密度	15%	1.02	0.72	1.02	0.68	1.02	1.24	
大隅半島		2,504 (33%)	28 (16%)	915 (34%)	623 (45%)	933 (36%)	825 (23%)	3,324
遺跡密度	23%	1.45	0.70	1.46	1.97	1.58	0.99	
大隅諸島 トカラ列島		414 (6%)	7 (4%)	251 (9%)	42 (3%)	33 (1%)	122 (3%)	455
遺跡密度	12%	0.46	0.33	0.77	0.25	0.11	0.28	
奄美諸島		620 (8%)	4 (2%)	145 (5%)	75 (6%)	92 (4%)	397 (11%)	713
遺跡密度	14%	0.59	0.16	0.38	0.39	0.26	0.79	
計	100%	7,500	175	2,721	1,374	2,564	3,592	10,426

遺跡密度からみた地域の特徴

鹿児島県の面積をもとに地域面積を加味した遺跡密度（注）を見てみると、大隅半島の遺跡密度は1.45と最も高く、続いて薩摩半島（1.25）、伊佐・始良地方（1.02）、北薩地方（0.82）、奄美諸島（0.59）、大隅諸島・トカラ列島（0.46）の順となる。その地域の時代別の遺跡密度を見ると、地域の特徴が明瞭に表れていることがわかる。

旧石器時代の遺跡は175遺跡発見されているが、薩摩半島は71遺跡で遺跡密度は2.14と高く、旧石器時代の遺跡は薩摩半島地域に極めて多く存在することがわかる。続いて北薩地方（46遺跡）が1.55と続き、伊佐・始良地方（19遺跡）0.72、大隅半島（28遺跡）0.70、大隅諸島・トカラ列島（7遺跡）0.33、奄美諸島（4遺跡）0.16と県南に位置するほど希薄となる。

縄文時代の遺跡は2,721遺跡発見されているが、大隅半島が915遺跡で遺跡密度が1.46と最も多く、縄文時代の遺跡は大隅半島地域に非常に多く存在することがわかる。続いて薩摩半島（583遺跡）が1.13、伊佐・始良地方（417遺跡）1.02、北薩地方（410遺跡）0.89、大隅諸島・トカラ列島（251遺跡）0.77、奄美諸島（145遺跡）0.38となる。

弥生時代の遺跡は1,374遺跡発見されているが、大隅半島が623遺跡で遺跡密度は1.97と最も多く、

弥生時代の遺跡は大隅半島地域に非常に多く存在することがわかる。続いて薩摩半島（372遺跡）が1.42、伊佐・始良地方（141遺跡）0.68、北薩地方（121遺跡）0.52、奄美諸島（75遺跡）0.39、大隅諸島・トカラ列島（42遺跡）0.25となる。

古墳時代の遺跡は2,564遺跡で、大隅半島が933遺跡で遺跡密度が1.58と最も高く、古墳時代は大隅半島地域の遺跡密度の高さが目立つ。続いて薩摩半島（665遺跡）1.37、伊佐・始良地方（392遺跡）1.02、北薩地方（449遺跡）1.03、奄美諸島（92遺跡）0.26、大隅諸島・トカラ列島（33遺跡）0.11となる。

奈良時代以降の遺跡は3,592遺跡で、薩摩半島が913遺跡で遺跡密度は1.34と最も多く、続いて伊佐・始良地方（668遺跡）1.24、北薩地方（667遺跡）1.09、大隅半島（825遺跡）0.99、奄美諸島（397遺跡）0.79、大隅諸島・トカラ列島（122遺跡）0.28となる。なお、奄美諸島の密度も高い。

（注）遺跡密度については、鹿児島県全域を100とした面積に対する地域面積の比率×遺跡総数＝標準的遺跡数、地域の遺跡数÷標準的遺跡数＝遺跡密度となる。遺跡密度は、1.00の場合が標準であり、1.00より多い場合は密度が高く、少ない場合は密度が低いことになる。

（新東晃一）